

・・出でも休まず、188回、189回、190回・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：小原本陣の森：5月 6日：第一土曜日、参加費400円

森林整備・担い手育成

- ・ 定例活動2：若柳嵐山の森：5月21日：第三日曜日、参加費400円

里山交流、お昼休みには森の音楽会・ギター弾き語り

- ・ 臨時活動：川崎ネイチャーフェスティバル：5月3日：第一木曜日

森林と都市をつなぐ広報（神奈川県・山梨県の後援事業）

- ・ 服 装：汚れても良い格好、着替え、濡らない足元。
- ・ 持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証、食器(鍋・箸)。
- ・ そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

### NPO活動がなぜ、凄いか、その1。

その2：川崎ネイチャーフェスティバルの準備状況：文中。

森林園をグルリと見渡すとその回答が見つかる。森が癒して楽しいが一番だが、「きつい・苦しい・キケン」の森林整備に来る根底には「森林の荒廃が心配だ」という危機意識がある。そこで自腹で、持ち出しで会費・参加費まで払って善意・無償ですから怖いものが無い。

経済：お金があれば利己：何でも買える世の中だが、利己の為にする喜びはお金だけでは買えない。森林園は、特別の能力の持ち主ではない。だが、利己のためにするから自分の潜在能力の赴くところを最大限に発揮する。それ故、理想と自己実現に向けて超能力を発揮するようになる。

FSCの認証取得に向けての挑戦や、昨年、藤沢に実現した県産材で家を建てようという試みは、「NPO知きに何が出来る」と冷笑されもしたが、仲間たちが初志を曲げなかったために実現できた。藤沢の家は、大棟梁の小林安雄さんも（元証の会会長）「信念・執念だな～」と驚嘆していた。

そんな活動が認められて「小仏峠景観回復」など、県からの受託事業に結びついている。当会の活動は、いよいよ「経済（森林事業）は、環境の一部」と言う形を示し始めた。

## 活動報告1：小原本陣の森：4月8日（第一土曜日）

午後は雨10%の確率と言う不安定な気象の下で1人が来なかった。

午後の小原町との交流会に備えて、午前中は、準備に8人を当てて21人が炭焼きとシイタケ・コウジ菌に結を出した。何時もの開伐など、荒仕事はなし。

第一度の小原町との交流会準備は、誠実・明朗・気立て良く・真面目なやまもっちゃん（山本晶子）

とみちよちゃん（佐伯みちよ）に任せて正解。これを、末期から当会の理事長になる小原町の木井さんと町のお世話役・小磯さんが、キツナリ受け止めて町につないでくれた。



シイタケのコウジ菌をする 写真提供：全児会



そんな光景に飽かず、胸がキューンとなった。お聞き予定の1時には、静寂された会場の何事も無かったように静寂が戻っていた。この交流会は、「都市と森林をつなぐ」仕組みづくりでもある。

投稿：初参加の田哲陽介さん（建築デザイナー）から。

僕は、自分の職業の範囲から環境問題について考えてきたが、身みな場所でも、もっと体感的に人と自然の関係について考えたいと思い、今回の「小原町の森」活動に参加した。

今や都市生活では、物流や生産技術が発達し、食料物は季節を問わず行われ、暑さ寒さは気候変動を仕事にする上での不快感とみなし、一定の温度に調整された快適さの中で生活している。日本の文化と、いわゆる季節感など、雑誌やテレビなどのメディアで語られる形式的な虚構に過ぎなくなってしまっている。ただ逆に考えると、その虚構に対するあこがれは、画一的な利便さに特化された社会で、今なお、止むことなくメディアを通じて人々の関心を引いている。やはりそれは、何か人間にとって必然性や必要性を感じているからと思う。

季節感のある現実の里山は、単に情緒的に鑑賞するだけのものではなく、またそこに親しむ憩いの場や生産の現場と、言うだけでなく、常に文化と歴史を保存する貯蔵庫としての役割がある。僕たちは、人間や人間の生み出した科学だけでは生きてはゆかれない。そして化石燃料であれ、木の葉であれ自然から何かを摂取し活用した結果として生命を維持することができている。そしてその知恵の集積こそ貯蔵庫たる里山の姿なのだ。だとするならば生命資源の宝庫である里山は、人間のあるいは社会の生存に不可欠な環境としてもっと認識されるべきだし、そう感じるようにしていかなければならない。それを言葉や気持ちと言ったものを、自らの肉体に刻み込むように肉体化させてこそ、始めて僕たちは山里と本当の付き合いが生まれ、生存の環境が維持されていくのだと思う。

初参加して、会員の皆さんや地域の地主さんと良い出会いに恵まれ、とても嬉しい限りです。そして会員の皆さんそれぞれの環境に対する想いが、現場活動を通して肉体化されていく様を見せていただきました。それは僕に感慨と活力を与えてくれました。皆さんとご一緒させていただきますので、宜しくお願いします。

記 田西陽介

## 活動報告2：若柳嵐山の森：4月16日(第三日曜日)

日本の天気予報は、世界でトップクラスの正確さだが、当日の活動日だけは予想を外してくれる。「午前曇り、午後雨」の予報が見事に外れて午前曇り、午後晴れとなった。先週の小原本陣の森：小原安盛会でもそうだった。

団体参加にJR貨物から12人、NPO川崎華まつり研究会から8人、東海大5人、望星高校17人、東急7人、森仲間31人、合計80人が集まった。最近では、団体参加が増えている。

活動班を大きく2班に分けた。5月3日の「川崎：ネイチャーフェスティバル」で使う竹300本の切り出しにJR貨物と幸町産が当たり、樹の木の「里山



望星の森：植樹 二名シンジ、ベネフィット設計

の森)への移植に東海大・聖見高校・東急が当たった。お仲間も、夫々、手分けして各班に参加した。

竹の切り出し場に行行したが、4トン車持込みのJ社貨物の皆さんの、たちまちに手分けして搬入して、ローワーのワークと下町の自走に決断された。寂しい森には、何れも知らぬ高校生と大の森の幹子輩達の働きで樹の本移植は、完全に全務を終った。

聖見高校の宮村教諭は、当会の中心人物なのだが、つい最近3月25日に結婚の新婚ホヤホヤだ。それで、大日向仲間が「宮村連理 新婚記念樹 4月16日」と細長逆三角形の看板をつくり朝礼の場で披露した。すると80人の皆んなが、「レンリ・レンリ、何かしゃべれ」と合唱・強要した。レンリ、屈れに感れて、お総経でとか何とか訳のわからんことを言っていた。笑っちゃうな。

### ゴールドマン・サックス証券会社とパートナーの取り組み

現在、神奈川県、東急コミュニテイ、みどりの基金(セブンイレブン)がパートナーになってくれている。新たに上記、ゴールドマン・サックス証券会社から打診があり10日六本木の日本本社と話し合った。先ず、現場を見て欲しいと活動日の16日、担当者吉田亜砂子さんが森を視察に来た。当会の仲間からは、真面目・誠実・明朗・謙虚・・・、だから問題なし。吉田さんは安心して5月から、ご一緒しましょうということになった。お仲間の皆んな、聖見高校や東海大、根 貨物などと同じように宜しく招待。

### 副田安男総隊長が「若柳嵐山の森」から手を引く

「森ボラ・カリスマ・院園」と尊称している副田総隊長から申し出を受けた。理由は、彼の住む日の田町を拠点に「新しい形の森林ボランティアシステム」を作りたいということだ。手を引くというこの申し出は嬉しいが、私招きほどの人物を当会で独占している訳には行かない。また、このことは、会が成長する一過程であることの証明だ。喜んで・・・と言う訳ではないが快諾した。

院園の抜ける対策として、16日活動終了後、臨時運営会を開いて「若柳・嵐山の森」活動は、当会の役員をしている、丸茂・大坪・森林ボランティアの大日向仲間らに引っ張って貰うことを採択した。手を引くといっても完全にと言う訳ではない。「小原本種の森」は今ままで通りだし、この森にも時々は、見に来てもらうことになっている。

### 甲州古道・中峠：相州屋跡地測量：4月14日(金)

手仏峠から成沢林道に向けて三分の二くらい行ったところに「中峠・相州屋」と言う跡地があったという話を聞いた。そこは平らな竹やぶになっていて中にもぐりこむと、石垣がいくつかあった。藪が持てるぞり歩き回ると、白くありはな古い石階跡があって、何やら御役所跡地などと思われる。好奇心の塊・斎藤林園が、手を引く上「測ったら大きさか」と言うことにはどうも聞いて、その話もした。

また、ここは葛野の守備隊が  
 30人ばかりの屯所を兼ねてい  
 たという。史跡発掘とばかり地  
 主の溝口正秋さんを探し出して、  
 小仏平野を囲って行政センターの  
 緑作課に測量をお願いした。  
 測量には、斉藤・速水仲間が志  
 援に来てくれた。屯所跡地は、  
 下段300坪、上段200坪、  
 最上段の曰くありげな墓所、  
 法宗竹とヒノキの叢生する藪。  
 甲州古道の復旧は、いよいよ調査から復旧整備に入っている。



中津・葛野屯所跡地測量 駐北事務所：森林課

「中津屯所跡をそんな風に大切に思ったださることは本当に嬉しい」と17日、地主の溝  
 口正秋さんから電話があった。

そしてまたまた、思いがけない情報あり、「小仏峠～院沢～小原本陣～弁天橋」が東海自  
 然遊歩道の新ルートとなった。約5kmのこの新ルートの整備は、高倉に任せてもらう。  
 過去を調べて現在を知れば、将来に向けて何を考え、何をすべきかが見えてくる。そんなこ  
 ともまた、古道復活の副産物である。

## 相模原市合併記念講演会：炭で炭を守る：4月15日（土）

・・酸雨：地球温暖化への影響・・

津久井町のNPO自遊クラブ：山本代表から比喩して欲しいとの要請を受けて協力した。  
 基調講演は、元東邦大学大森邦子教授が「酸性雨：地球温暖化への影響」と題してその化学的  
 見地から説明してくれた。排気ガス成分（CO<sub>2</sub>）が、化学反応を起こし硫酸酸化物・硝酸酸化物と  
 なって、特に硫酸酸化物を雨が運び被害を広げているということであった。内容は、実に説  
 得力のあるものであった。  
 石村は、「市民が支える：神奈川県の水循環の保全・再生」と題して、水源の森の保全・再生は  
 行政と市民の協働なしには、なし得ないことを話した。大森教授の説く科学的な見地も視野に  
 入れて進めねばならない。

合併記念講演会と銘打ち、相模原市の後援を得ているからには、神奈川県と相模原市行政側  
 両者の参加は必要と、山本さんには相模原市、石村は神奈川県での行政参加を働きかけること  
 にした。神奈川県からは、駐北事務所の斉藤副所長（森林課長）が快く応じてくださった。新聞  
 にも大きく報道された。

相模原市からは、誰もおなかつた。市民が自然を想いで、相模原市の森林を守りたいといふ  
 気持ちを行動に移して協働の申し入れをしているのに、相模原市行政はなぜ、協力しようとし  
 ないのか。

## NPO が抜いた現場状況、その2：第3回：川崎ネイチャーフェスティバル。

当会の現場からその姿を報告する。

何時、何処で知り合ったか覚えていないが、川崎市幸区で活動する「NPO 法人おまちのくろ研究会：千葉美佐子代表」と横浜で衣食住の調和をテーマに活発な活動をしている「鈴木麻子設計士：当会会員」を加えて「川崎ネイチャーフェスティバル」のタッグを組むようになった。今回で3回目になるが、山梨・神奈川・川崎の支援を取り付け、山梨からは、杉・ヒノキ・唐松赤松で作る4mのシンボルタワーと130本の小径木を協力して買い、神奈川からは300本の竹を準備した。JR貨物やJRFの協賛ほか、これをいろんな団体から約70人が負担を切っ、この活動を支えてくれる。案内は同社のチラシの通りだが、これだけの規模の森林広域イベントを総額予算65万円で済ませようというのだ。知り合いで情報系に勤める友人に見積もって貰ったら、「ウーン、800万円や、これ以上だな」と言った。

## 桂川・相模川：流域をつなぐネットワーク in HIRATUKA 湘南平

「緑のダム・北相模」の認証取得がキッカケとなって、平塚市・大磯町の自然保護団体が「FSC認証への挑戦」に名乗りを上げた。それに取り組みたいと連絡を受けて、4月9日（日）JR大磯駅に出かけたから平塚から2名、大磯から2名の熱心な4名が持っていた。

先ず、湘南平の西方を俯瞰する眺望台にあがって360度、地形を確認する。はい、こんな遠い場所だったのか、眺望台ではダメ、360度、東に丹沢山塊、西に黒瀬川・湘南海岸・太平洋、南に伊豆半島から富士、北に平塚・相模、その先、横浜ランドマークタワーが見える。その遠さは、地形の面白さ（湘南平・桂川山・高麗山）だけではない。植生の豊富さである。その遠さを知りたい読者は、自分の感性と自分の目で確かめられたい。

こんなところを「地球の森林を救え：発信基地」にしようと思い立った平塚・大磯の環境保護団体も強い。来る5月9日（第2日曜日）、平塚で「相模川流域活性化P1」のお誘いを受けた。平塚市堀町15-14、FM城所聴聴店3F（0463-22-2349）5時から。

## 国内認証（SGEC）と国際認証（FSC）

相模川・自然保護協会の真下顧問のご紹介で、国内認証（社 全国林業改良普及協会）の大竹審査責任者から国内認証の資料が送られてきた。

わが国では、認証制度に国内認証と国際認証の二つがあるが、どちらが良いとか悪いとかと言う意見がある。そのような論議は意味が無い。どちらも良いに決まっている。自分の目線に合った取り組みをすれば良いだけ。

### 国内基準：SGEC

1. 認証対象森林の明示および管理方針の確立
2. 生物多様性の保全

### 国際基準：FSC

1. 全くの法律や国際的な取り決め、そしてFSCの原則を守る。
2. 森林を所有する権利や利用が明確になっている。

## 3. 土壌および水質の保全と維持

4. 森林の生態系の生産力および健全性の維持
5. 持続的森林経営のための法的・制度的枠組み
6. 社会・経済的便益の維持および増進
7. モノタリングと情報公開

ている。

8. 昔から森に暮らす人々の伝統的な慣習を尊重している。
4. 地域社会や労働者と良好な関係にある
5. 豊かな収獲があり、地域から愛され利用される森である
6. 多くの生物がすむ豊かな森である
7. 調査された基礎データに基づき、森林管理が計画的に行われている
8. 適切な森林管理を行っているかどうかを定期的にしている
9. 貴重な自然を守っている
10. 人工林の形成が自然の森に影響を及ぼしていない。

そして、どちらも森林認証と減産管理を義務付けしている。

## 活動アンケート5、回答。

FSCでは、問題があればそれを一時的に解決することを求めている。そこで山内西条の山内山に問題があるかアンケートを行った。2008年のアンケートに対して38回計、58件の回答が得られた。昨年11月から今年2月まで全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今月から森林管理に関する疑問・意見・提案を取り上げる。忌憚のない反論・異論を提供されたい。

### (森林計画について)

提案：山に入るときは(作業のとき)、一人で入らないようにしたい。安全の為に(活動会員) (同 遊) 単独行動の危険性：熟練スタッフが集団から離れて一人で他のルートに入ってしまったことがある。作業する上で、エリア内で距離を取るには勿論だが、それぞれ集団から離れてしまうのは非常に危険である。事故があってからでは遅い。どうしても気になることがあれば、リーダーなり全員なりに説明して同行者を伴うようルールを決めた方がよい(活動会員)

回答：全く、その通りです。一人で入って大事故に繋がった例を聞いています。一つは、チェーンソーで腕を切って死んでいた。どうしてそうなったか分からないそうです。多分、エンジンが回っているチェーンソーの上に転倒したのではないかと推定することです。また、木から転落・死亡したそうです。連絡があれば、救急車の準備など、手の打ちようもあったでしょう。

FSC認証の森管理者の責務として、十分以上の監視が必要で、これまで、園田隊長がやっていたように、園田隊長が、長門風山の森から、おけることになった昨日16日の運営会でも議題に出ました。自分、山と森林整備については園田隊長にお任せすることとして、他の山は皆が引き受けたい。事故は、いいことでは

が出ていますが、死亡事故でもあれば解散くらいの覚悟が必要です。正会員でない活動会員の自覚ある提案に感謝します。

## 木を使うこと、森を守ること、7、

文責：自然素材・古材ギャラリー佐工房なお

今回は5月3日（雨天時4日に顺延）にJR貨物跡地（JR新川崎駅下車）で行う「川崎ネイチャーフェスティバル」について書きます。

このイベントは、都市と森をつなぎ「木を使うこと森を守ること 守ろう水源の森」をコンセプトに行います。森林を五感で感じ取っていただけるようなお祭りです。特に子供たちに遊んで貰えるようないろいろなワークショップがあります。

課題は勿論、「木」です。今回の私たちNPOの役割は、山梨県と神奈川県をつなぐことです。水源の森は「山梨県・桂川から神奈川県・相模川」に繋がっています。しかし、今まで山梨から直接木材が首都圏に流通する仕組みがありませんでした。近畿圏からの流通が大半です。木材が直接流通することは搬入費や納期短縮、そして搬入時のCO2排出削減など利点は沢山あります。

会場では「森」をイメージしていただくために6mの木材を組み合わせたシンボルタワー、森のカフェ、竹のテントなど自然の素材を使います。その材料集めの為に両県を日参しました。結果は、山梨の4大樹種（ヒノキ・杉・栗・椎）を使ったシンボルタワー、三角錐をユニットに組み合わせたオープンカフェ、神奈川県と協働森林事業を取り組んでいるNPO社のダム竹300本による森のイメージづくりです。山梨からは搬出入・ユニット費用の負担、130本の小径木製材や山林地主・森林組合の協賛出品等々、ブース出展を快く引き受けてくださいました。

ともかく、上記の方々のお熱心さと動きの早さに助けられて、このイベントのテーマが形を成してきました。また、ボランティア活動の意味も理解していただきました。当日がとても楽しみを準備が進みました。皆様も是非、遊びにいらしてください。

このイベントは、「市民運動NPOが神奈川県・山梨県と協働する事業」として開催されます。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・

そして、沢山の参加で森はよくなる。

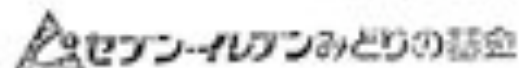
名 称：さがみ湖・森づくりの会：NPO法人緑のダム北相模/森林部会

事 務 局：154-0023 東京都 伊豆谷区 若林3-35-9

発行人：石村 英（ T&F 03-3411-1636）

HP：<http://niskwineden.jp/> 郵-mail：norkano@niskwineden.jp

協 働 団 体：神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域振興総合センター森林部)、



ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建設組合

東急コミュニティー